

2025

東京産のピッグスキン

Tokyo Leather 

PIGSKIN

特集

JIS革・レザーと呼べるのは
動物由来の素材だけ



As pigskin has historically been eaten as part of pork in most go the world, Tokyo has been a global leader in pigskin-related technological development, where leather manufacturers have developed novel pigskin items such as softer leather, suede, non-chrome tanned leather, and various finishing methods. Tokyo prides itself on producing and supplying the world-class quality pigskin still today.



TOKYO LEATHER PIGSKIN 2025 東京都／東京製革業産地振興協議会

東京レザーフェアッショナ(ピギーズ・スペシャル)に係る
都内皮革鞣製業の広報・宣伝業務

JFW ジャパン・クリエーション 2025

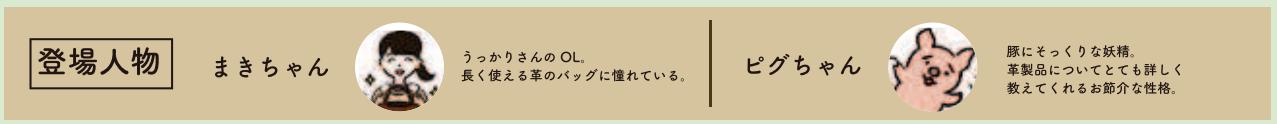
主催：一般社団法人日本ファッショ・ウイーク推進機構

JFW テキスタイル事業運営委員会

後援：経済産業省、独立行政法人中小企業基盤整備機構、他

産業労働局商工部 経営支援課
2024年11月発行
登録番号 (6)132

古紙パレプを70%以上配合した紙を使用しています。
環境に配慮したインキを使用しています。



**本革とは動物の皮から作られ、
なめし加工を施されているものです**

「レザー」と聞くと、どういったものが思い浮かぶでしょうか？動物の皮をなめしたものを「レザー」「革」と呼びますが、世の中にはサステナビリティへの配慮から、本物の動物の革を使用していない「レザー調」の樹脂素材にも、「〇〇レザー」や「〇〇革」といった表現が数多く使われています。しかし、これらの「レザー調」樹脂素材を「ヴィーガンレザー」や「フェイクレザー」また材料名をつけて「〇〇レザー」といった表現で発するブランドやメーカーが増えたことで、本来の革（レザー）製品と誤認して購入してしまう消費者が続出。動物由来の革は使うほどに味わいが深まるのに比べると、「レザー調」の樹脂素材はボリュレタントやビニール等を使用しているために熱や光、水分、力がかかることが原因で劣化してしまいます。また石油由来の材料ですので、自然には分解されず焼却処理などで環境に影響を与えることもあります。革（レザー）だから長持ちすると期待して購入したのに劣化してしまったり、耐熱性や強度が弱かつたりするなど、消費者の期待を裏切るようなことが起こってしまいます。

この課題解決のため、「革（レザー）と呼べる製品は動物由来のものに限定する」という新たな規格がJIS（日本産業規格・Japanese Industrial Standards）で制定されました。

「革」「レザー」と呼べるのは、動物由来の素材だけ

-TOKYO LEATHER PIGSKIN 2025-



**国内で自給できる唯一の素材
「ピッグスキン（豚革）」ってご存知ですか？**

ピッグスキンは
皆さんもいつも食べている豚肉の副産物である
「皮」を活用して作られています。
使わなければ捨てられてしまう部分を
最後まで有効活用した素材です。

これらの多くの革工場の長年の開発によって
今では、軽くて、丈夫で、使いやすく
色々な表情に加工された革が作られ
身の回りの皮革製品に使われています。

原材料である皮から全て国内で調達できる唯一の素材
東京都内で加工されるピッグスキンは東京の特産品です。

ぜひこの冊子を通じて
ピッグスキン（豚革）を知つてもう一
身近に感じてもらえることを願つています。



TOKYO LEATHER PIGSKIN

東京産のレザー ピッグスキンは（豚革）

国内で豚肉の副産物として作られる天然の皮革です。



革製品って、長く愛用できるものだからこそ、ちょっとの知識で選び方がぐっと変わりますよね。ヨーロッパの国々をはじめ、世界では「本物の革」を守るためにルール作りが進んでいるんです。ほんの少し、素材について知るだけで、お気に入りのアイテムをもっと大切に、長く愛用できます。そして、本当に自分に合ったものを選ぶことは、地球環境にも優しい選択に繋がります。



JIS で決まった「革」「レザー」の定義

JIS K 6541:2024

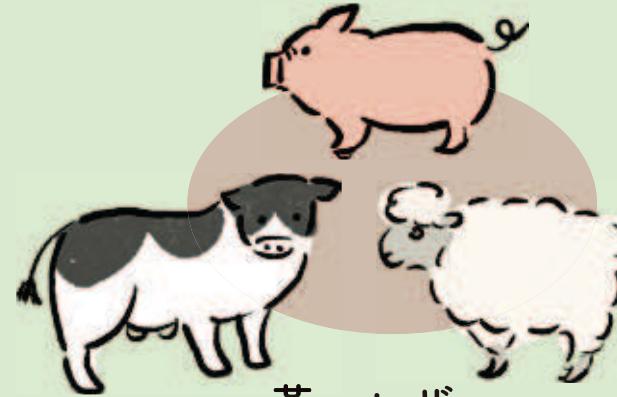
JIS 規格における定義：

革、レザー：「皮本来の繊維構造をほぼ保ち、腐敗しないようになめした動物の皮」

エコレザー：「皮革製造におけるライフサイクルにおいて、環境配慮のため、排水、廃棄物処理などが

法令に遵守していることが確認され、消費者及び環境に有害な化学物質などにも配慮されている革（レザー）」

動物の皮から作られた



革・レザー

動物の皮から作られ、
なめし加工を施されているものが

「革」＝「天然皮革」＝「本革」

です。

植物由来の名称など



キノコの皮革 サボテンの皮革

偽物であることを表現した名称



「人工皮革」「合成皮革」

・合成皮革：織布、編物、不織布など、様々な素材をベースに樹脂で加工
・人工皮革：特殊な不織布をベースした樹脂素材、より本革に近い質感に仕上げています。

植物原料名を使用した表現
合成皮革、○○樹脂、○○繊維素材等

エコレザー



食肉の副産物で資源の有効活用

環境に優しい生産工程

有害化学物質が規定値以下で人に安全

エコレザーを名乗る樹脂素材



ゴミ処理場 化学プラント

石油由来の樹脂

廃棄時の環境負荷が大きい
樹脂は劣化してしまいます

粉碎した革をシート状にしたもの

例：リサイクルレザー、再生革、
ポンデッドレザー



▲ 粉碎する前の革

「皮革繊維再生複合材」
「ポンデッドレザーファイバ」
「レザーファイバボード」

人工的な素材は
エコレザーと呼べません
エコレザーは
人にも環境にも優しい
天然皮革です。



J—I-S 制定の背景とは

一般社団法人 日本皮革産業連合会
事務局長

吉村圭司さん
インタビュー

解説セミナーには約600名以上が
参加し関心高まる

サステナブルの意識がファッショニ業界
に広がる中、靴、バッグ、かばん、財布、
ベルト、アパレルなどの製品に、「〇〇レ
ザー」「〇〇革」といった植物由来・石油
由來の素材を使ったものが市場に出回るよ
うになりました。消費者がこれらを、本来
の革（レザー）製品と誤認してしまう事態
が発生しています。

こういった背景から、2024年3月より「革（レザー）」と呼べる製品は、動物
由來のものに限るという規格がJ—I-S（日
本産業規格）で制定されました。5月には
「東京レザーフェア」の会場内で、また7
月には東京と大阪で二度目のセミナーが開
催され、オンライン含め両会場で計424
名が参加しました。

ここに至るまでの約3年間、この規格作り
の段取りから基本用語の設定などに取り組
んでこられた、事務局長の吉村圭司さんに
お話を伺いました。

40%しか「革が食肉の副産物である」
ことを認識せず

植物等を一部使った〇〇レザーと名付けられた革の代替素材が増える中、
「革（レザー）は、動物由来のもの」と定義づけられました。消費者の誤認を防ぎ、
革は“食肉の副産物である皮を有効利用したもの”との認知を広げていく活動をお聞きしました。



百貨店、織維試験機関など、幅広い業種
の方にご参加いただき、皆さまの関心の
高さが伺えました。

現在は様々な企業からの問い合わせが、
毎日のように届いています。特に大手
ECサイトや通販会社などは「今素材
をどういった名前にすればよいか」など
の相談が多く寄せられています。消費者
とダイレクトに接する百貨店や専門店か
らは、「石油由来の製品に“レザー”的名
称は違和感があった」「日頃のもやもやが
クリアになつた」などのご意見を頂きました。
最近は消費生活センターに、「ヴィーガン
レザー」や「アップルレザー」は本革とどう違う
の?」「それを使うと環境に優しいの?」
といった問い合わせが届いている、との報

海外では動物由来でない素材に “レザー”を使うと罰則規定も

すでにイタリア・フランス・スペイン・
ドイツ・ブラジル・ポルトガルなどの諸
外国では「革（レザー）」は動物由来のも
のに限定する」と法律によって定められ
ています。イタリアでは法令により、動
物由来でない素材には

「cuoio, pelle (革)」という名称
が使えないまま、違反者は罰金刑の対象
となりました。

今回のJ—I-S制定は、欧州規格、ISO
規格と整合性を持たせています。J—I-S
も含めてこれらの規格には、法的な拘束
力や罰則などはありません。ただ百貨店
や専門店での今後の取り扱いについては、

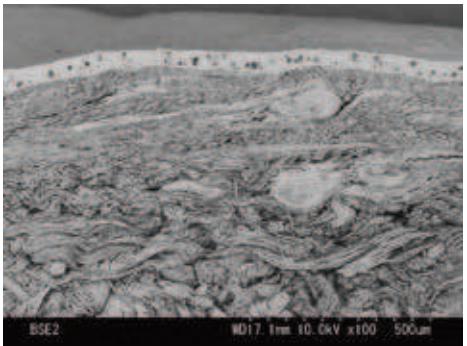


今までより難しくなる可能性もあります。

登録商標されている「〇〇レザー」とい
う名称であっても、何かしらの対応が必
要となってくると思います。

もちろん、合成皮革や人工皮革にもそれ
ぞれのメリットがあるので、双方の違い
を知り、製品によって使い分けて頂きた
いですね。新素材が開発されたら、ぜひ
オリジナルな製品名を付けていただけれ
ばと思います。

また動物由来ではない素材の場合は、商
品名には使用できませんが、説明文の中
には「レザー調のものを作りました」と
いう書き方をすることは可能です。



仕上げ塗装、又は表面層を付与したものは、仕上げ塗装、又は
表面層の厚さが0.15mm以下のものを革（レザー）とい

一般社団法人日本皮革産業連合会

東京都台東区駒形1-12-13
皮革健保会館7F
Tel: 03-3847-1451
HP: <https://www.jlia.or.jp/>

0.15mm以下

革製品の販売現場から見た 東京産ピッグスキンの魅力

ブランドコーディネーター
かまくらやすこさん
インタビュー



「革製品販売のプロフェッショナル」と言っても、単に百貨店や専門店の販売員の方ではありません。

かまくらやすこさんは、国内にある様々なレザーブランドを知り尽くし、そのバイイングから店頭プレゼンテーション、そして販売までと一気通貫でお客様へと届けることのできる、唯一無二の存在です。国内さまざまなファッショング

現場から見えてくる、ピッグスキン製品の魅力や、ご提案の際に心がけていることなどを伺いました。

デザイナーとお客様をつなぐ「通訳」のような役割に

私自身はもともとバイヤー志望ではなく、学生時代は服飾専門学校でメンズウエアのデザインを学んでいました。2年のバリ留学を経験してから、はたと「私はデザイナーよりではない」と気づいてしまって。帰国後どんな仕事に就こうか悩んでいたとき、雑誌の「H.P.FRANCE（アッシュペー・フランス）」のクレジットを見つけ、すぐに会社に電話を掛け、中途採用されました。

その後「ラフォーレ原宿店」の店頭に立つことになりますが、ハイジュエリーの接客で結果を出したことをきっかけに、販売の面白さに一気にのめり込んでいきます。デザインを学んだからこそ、デザイナーたちが生み出すものへのリスクが生まれ、販売を通じて彼らを応援したいと考えようになりました。

また、お客様が商品を購入される際に、「問題解決」をしたいのか？それとも「ワクワク感」が欲しいのか？など、言葉にならない部分を探りつつ、内面に抱える想いを紡ぎ出すような接客を心がけています。モノに託されたデザイナーの気持ちを、私が言語化してお客様に「通訳」しているのかなと感じています。



加工しやすく使いやすいと定評のピッグスキン

革と革製品に出会えるショールーム「TIME & EFFORT」（現在閉業）のバイヤーになったことも転機になりました。インポートブランドの開拓から、国産レザーブランドに関わる仕事への転換は、自分の中では大きなバラダイムシフトでした。

どの国産ブランドも「いいもの」であることは間違いない。自分の好き嫌いはまず横に置いて、どう伝えたら相手の気持ちが動くかを、まるで「自分に接客する」かのようにひとつひとつ商品を吟味していました。

インポートと国産の大きな違いは、いざというときの修理やケアがすぐ依頼できること。そしてアトリエショップに行けば、職人たちが作っている姿を見ることができます。私も自信をもって「5年10年と続けて使えますよ」と伝えてきました。定番品を継続して作り続けるブランドも多く、長く愛用できることは魅力のひとつだと思います。

またピッグスキンは、靴のライニングなどが多く目に触れる少ない革ですが、アクセサリーや袋物を制作するクリエイターは、カラーバリエーションも豊富なうえ、加工しやすく使いやすい革と口を揃えて話しています。

原皮から鞣し、加工まで100%国内生産できる素材であり、都内にタンナーが集まっているので、工場見学に行ったり、職人に直でお話を聞くことができます。



▲レザーグッズブランド「minica」にて、メディアに合わせたショップディスプレイ

鎌倉 泰子

フリーランスのバイヤー、セールス、ライター
元「H.P.FRANCE」ディレクター、バイヤー、セールス
元(社)日本皮革産業連合会「TIME&EFFORT」バイヤー
(社)日本タンナーズ協会「日本革市」コーディネーターなどを歴任。

<https://www.instagram.com/ysk2mkr/>

革と革製品に出会えるショールーム「TIME & EFFORT」（現在閉業）のバイヤーになったことも転機になりました。インポートブランドの開拓から、国産レザーブランドに関わる仕事への転換は、自分の中では大きなバラダイムシフトでした。

どの国産ブランドも「いいもの」であることは間違いない。自分の好き嫌いはまず横に置いて、どう伝えたら相手の気持ちが動くかを、まるで「自分に接客する」かのようにひとつひとつ商品を吟味していました。

インポートと国産の大きな違いは、いざというときの修理やケアがすぐ依頼できること。そしてアトリエショップに行けば、職人たちが作っている姿を見ることができます。私も自信をもって「5年10年と続けて使えますよ」と伝えてきました。定番品を継続して作り続けるブランドも多く、長く愛用できることは魅力のひとつだと思います。

またピッグスキンは、靴のライニングなどが多く目に触れる少ない革ですが、アクセサリーや袋物を制作するクリエイターは、カラーバリエーションも豊富なうえ、加工しやすく使いやすい革と口を揃えて話しています。

原皮から鞣し、加工まで100%国内生産できる素材であり、都内にタンナーが集まっているので、工場見学に行ったり、職人に直でお話を聞くことができます。

高い加工技術を持つ工場は、オリジナリティを求めるクリエイターから熱い支持を集めています。

POP UPやイベント会場ではインバウンドの方に接客することも多いですが、日本独自の繊細な色合いのピッグスキンを“美しい”と言つてくれる方が増えました。ヨーロッパのハッキリした色みではなく、自然界からインスピライされた日本古来のニュアンスのある色が、外國の方には魅力に映つているようです。

長い間使うものは、長く付き合える素材のものを

「日本革市」「etcSHIPS（エトセトラ・シップス）」など、百貨店イベン

トの運営サポートもしていますが、革製品をご紹介しながら懸念するのは、思つていたより「皮革は食肉の副産物である」ということをご存じない方が多いことであ

す。このことはしっかりと伝えていかないといけない。「どこで作られているの？」
「このファーは大丈夫？」など、サステナブル意識の高い方は増えたように感じますが、併せて革は副産物であることも知つていただきたいです。

若い世代の方々は、コロナ禍もあって本革と出会いの機会が少なく、また植物由来の「○○レザー」が登場したことでの何を使ってよいのか混乱しています。

そんな時によくお伝えするワードは、「長く使うものは、長く付き合える素材を」。そして「革は長く使うことで魅力の出る素材、あなたの相棒に必ずなってくれますよ」とお話しします。

ご自身のライフスタイルにぴったりのアイテムと、「これぞ！」という出会いをしていただければこんなに嬉しいことはありませんね。

革製品販売のプロフェッショナルと言っても、単に百貨店や専門店の販売員の方ではありません。

かまくらやすこさんは、国内にある様々なレザーブランドを知り尽くし、そのバイイングから店頭プレゼンテーション、そして販売までと一気通貫でお客様へと届けることのできる、唯一無二の存在です。国内さまざまなファッショング

現場から見えてくる、ピッグスキン製品の魅力や、ご提案の際に心がけていることなどを伺いました。

革と革製品に出会えるショールーム「TIME & EFFORT」（現在閉業）のバイヤーになったことも転機になりました。インポートブランドの開拓から、国産レザーブランドに関わる仕事への転換は、自分の中では大きなバラダイムシフトでした。

どの国産ブランドも「いいもの」であることは間違いない。自分の好き嫌いはまず横に置いて、どう伝えたら相手の気持ちが動くかを、まるで「自分に接客する」かのようにひとつひとつ商品を吟味していました。

インポートと国産の大きな違いは、いざというときの修理やケアがすぐ依頼できること。そしてアトリエショップに行けば、職人たちが作っている姿を見ることができます。私も自信をもって「5年10年と続けて使えますよ」と伝えてきました。定番品を継続して作り続けるブランドも多く、長く愛用できることは魅力のひとつだと思います。

またピッグスキンは、靴のライニングなどが多く目に触れる少ない革ですが、アクセサリーや袋物を制作するクリエイターは、カラーバリエーションも豊富なうえ、加工しやすく使いやすい革と口を揃えて話しています。

原皮から鞣し、加工まで100%国内生産できる素材であり、都内にタンナーが集まっているので、工場見学に行ったり、職人に直でお話を聞くことができます。

革と革製品に出会えるショールーム「TIME & EFFORT」（現在閉業）のバイヤーになったことも転機になりました。インポートブランドの開拓から、国産レザーブランドに関わる仕事への転換は、自分の中では大きなバラダイムシフトでした。

どの国産ブランドも「いいもの」であることは間違いない。自分の好き嫌いはまず横に置いて、どう伝えたら相手の気持ちが動くかを、まるで「自分に接客する」かのようにひとつひとつ商品を吟味ていました。

インポートと国産の大きな違いは、いざというときの修理やケアがすぐ依頼できること。そしてアトリエショップに行けば、職人たちが作っている姿を見ることができます。私も自信をもって「5年10年と続けて使えますよ」と伝えてきました。定番品を継続して作り続けるブランドも多く、長く愛用できることは魅力のひとつだと思います。

またピッグスキンは、靴のライニングなどが多く目に触れる少ない革ですが、アクセサリーや袋物を制作するクリエイターは、カラーバリエーションも豊富なうえ、加工しやすく使いやすい革と口を揃えて話しています。

原皮から鞣し、加工まで100%国内生産できる素材であり、都内にタンナーが集まっているので、工場見学に行ったり、職人に直でお話を聞くことができます。